

12月10日ごろから慣熟飛行

空港閉鎖は6日から8日間

高知空港は、十二月十六日に

ジェット機の第一便が飛ぶことになり、新滑走路、空港ターミナルビルなど、急ピッチで工事が行われています。

ジェット機就航を二週間余り後に控えた空港は、これから更に最終的なチェックや総仕上げの工事が行われようとしています。

— 空港閉鎖 —

まず、今月の六日から十三日までの八日間、空港は閉鎖（全便欠航）され、新滑走路の取り付け誘導路の建設が行われます。

— 慣熟飛行 —

また、十日ごろから四十五日間、新滑走路を使用してジェット機の

慣熟飛行（離着陸テスト）が、一日約二十回行われる予定です。

— 空港ビルオープン —

空港ターミナルビルは、一部の内装工事を残すのみとなり、十三日に竣工式典が行われ、オープンします。

このほか、十五日には体験搭乗飛行、十六日にはいよいよジェット機の第一便が就航することになります。

『おいげ様』の社殿が落成



立派に復興された「おいげ様」の神殿

皮膚病には何でも効くおいげ様と、親しまれている長岡陣山の「神母神社」の本殿、拝殿の落成式が十一月

十三日に行われ、地元の人ら大勢が集まりもち授けをして祝いました。

昨年三月、不慮の火災で社殿が全焼。さっそく氏子を中心となつ

て再建奉賛会（宮崎久代表）を作り、再建のための浄財一千四百万円を集めました。寄付は、伊野や高岡の方からも集まり、おいげ様の御利益が広く知れ渡っていることを物語っています。

そして今年四月に本殿が完成、七月にも拝殿もりっぱに出来上りました。この本殿を建築した方は、宇田に住む三十一歳の前中義雄さん。お宮作りは初めていうことで、本を見て研究を重ねた末の作品ですが、地元の人には高い評価を受けています。

そもそも、この「神母神社」は野中兼山がこの地を開発するときに、豊作を祈って勧請してきたと言われ、「おいげ」とは稲作を守

る水の神を意味するそうです。拝殿の登り口の右側に、竜の口からご神水が出ており、これをつ

みんなで豚汁作りの

焼いもパーティーも楽しむ

子どもたちが丹精込めて手入れをし、大きく育ったさつまいも。後免野田保育所では十一月十一日、収穫したいもをどつさり使つて、焼いもや豚汁作りを楽しみました。

地元の細川正健（下野田）さん

の好意で畑を借り、いもの苗を一本一本植えたのが、今年の六月。子どもたちは、夏の暑い日にも手

ければデモノ、ハレモノなどの病気に効き目は著しいと言われ、今も訪ねて来る人は多いそうです。



入れを忘れず、遠く離れた畑まで水かけや草引きに出かけ大切に育てて来ました。そして、十一月十日にいよいよ収穫。大きく育ったいもを掘り出す度に歓声が上がり、持って来た袋はすぐいっぱいになりました。

翌日の十一日は食事会。かわいいエプロン姿の女の子は、ハクサイやニンジンなど上手に切り、豚汁の具を作るのに一生懸命でした。加藤園長は「小さい時から、力を合わせて労働させることは、子どもたちにとつてとても大切なことだと思っています」とのこと。

準備を始めてから約二時間、待ちかねた昼食。子どもたちは、調理師さんが作ってくれたサラダや酢物といっしょに、湯気のたつ豚汁をおいしそうに食べていました。

豚汁に入れる野菜を
上手に切る園児たち